



国有林から伐り出された木材はどこへ！

【資源活用課】

近畿中国森林管理管内の森林面積に占める国有林の割合は、6%と小面積で分散しているものの、終戦直後から伐採跡地にスギ・ヒノキを植林してきたため、人工林の割合は42%と高くなっています。そのうち11齢級（51年）以上の森林が60%以上と森林資源が成熟してきており、利用期を迎えています。

この成熟した資源を有効活用するために、公益的機能の維持・増進に配慮しつつ、森林整備事業等を通して、木材の持続的かつ計画的な供給に努めています。



利用期を迎えた人工林

1 森林整備事業による木材の生産（素材販売）

間伐等の事業を一般競争入札により請け負った事業者が伐採・搬出を行い、丸太に加工したものを原木市場に輸送してせり売りする「委託販売」、又は山の伐採現場で丸太を集積して製材工場等へ直接販売する「山元販売（システム販売）」により、需要用途等に応じて、生産された木材を販売しています。

販売された丸太は、住宅等の建築物の骨組みとして用いられる柱、梁、桁、土台等の構造材や壁、床、屋根の下地材として用いられる構造用合板等に加工されます。



プロセッサ（林業機械）による丸太生産



丸太の搬出

また、曲がり等の欠点材や丸太に加工する際に生じた端材（根元、先端部）等についても、主に紙の原料やバイオマス発電等の燃料用として販売しています。

今年度は、11万立方メートルの丸太生産を予定しており、そのうち一般製材用7.4万立方メートル、燃料用等3.6万立方メートルを販売する予定です。



原木市場でのせり売りの様子

(注) 1立方メートルは、胸高直径26cm、
樹高21mのスギ立木2本分に相当します。



山元販売（システム販売）を行うため山に集積



チップに加工された端材

2 立木のままの売り払い（立木販売）

樹木が山に立っている（生えている）状態で一定区域を販売する方法を立木販売といい、購入者が立木を伐採・搬出し、丸太に加工して利用します。

原木市場で取引される丸太価格から、伐採・搬出・輸送コストを控除した金額（市場価逆算方式）に基づいて売り払う予定の最低価格を決定し、その価格以上で、最も高く入札された方と契約します。

各署等で、スギ・ヒノキの人工林の立木販売を予定しています。



ヒノキ人工林

「カブトムシ里親まつり」 を開催 ～森林ふれあい推進事業イベント～

【箕面森林ふれあい推進センター】

7月7日（日）、箕面国有林内の「エキスポ'90みのお記念の森」において、「カブトムシ里親まつり（飼育編）」を開催しました。

このイベントは、森林とのふれあい体験を通じて、「森のすばらしさや森林の大切さ」を理解していただくこと、また、カブトムシを飼育し、幼虫を山に返すといった一連の飼育活動を通じて「かけがえのない命の大切さ」を体感いただくことを目的として「NPO クワガタ探検隊」との共催により開催したものです。



紙芝居「帰ってこい 王者くん」

当日は、15家族、37名の方々に参加いただき、「NPO クワガタ探検隊」の西義史理事長夫妻による創作紙芝居「帰ってこい 王者くん」の上演や森林散策を行っ

た後、参加した子供たちに地元産のカブトムシを配付し、飼育方法の説明を行いました。



森の散策

配布したカブトムシは、子供たちに飼育してもらい、生まれた幼虫を里親として育ててもらいます。育てた幼虫は、10月6日（日）に予定している「カブトムシ里親まつり（放虫編）」において、国有林内に設置してある昆虫ベットに返すこととしています。



カブトムシをもらった子供たち

参加家族からは、「小さな子に自然とのふれあいの時間を作れてよかった。」「初めて訪れたが、自然にたくさんふれあい、展望台からきれいな景色が見れて良かった。」「自然の中でお弁当が食べられてよ

かった。」「今後もこういった貴重な活動を続けてください。」などの感想をいただきました。

箕面森林ふれあい推進センターでは、今後も様々な機会を通じて、国民の皆様方が自然に触れ合う場を提供してまいります。

国有林災害復旧工事個所 「現場見学会」を実施 ～平成30年7月豪雨災害関連～

【広島森林管理署】

7月28日（日）、ノウソ山国有林の災害復旧工事現場において、地元の皆さんを対象とした「現場見学会」を開催しました。



治山ダムの前で説明

広島森林管理署では、平成30年7月豪雨により被災した山地の復旧に向け、順次災害復旧工事を進めています。

今回の「現場見学会」は、これらの工事

を進めるにあたり、事前に地元説明会を開催したところ、地元自治会から「工作物の仕組みや構造はどうなっているのか。」などの質問があったことから、広島森林管理署としても、災害復旧（治山）事業を理解していただくいい機会と考え開催したものです。



コンクリート強度の測定

ノウソ山国有林の災害復旧工事の進捗率は約80%と、多くの災害復旧工事現場の中で最も高く、10月に完成予定です。

当日は、地元から約30名の参加があり、広島森林管理署の監督職員から工事内容の説明を行い、工事現場を見学していただくとともに、コンクリート強度測定や法（のり）勾配の確認などを体験してもらいました。

参加者からは「早期に工事を進めてくれて有り難い。」「思っていたよりも構造物が大きくて安心した。」「ミキサー車が多く通るのが何故なのか理解出来た。」「丈夫そうだと感じた。」等の意見、感想がありました。

最後に、山地災害復旧対策室長から「施設が完成しても避難勧告が発令されたら、避難することが一番大事です。」と避難の重要性を伝えて見学会を終えました。

広島森林管理署災害対策本部が 林野庁長官賞を受賞 ～平成30年7月豪雨関連～

【総務課】

7月17日（水）、広島森林管理署において「広島森林管理署災害対策本部」に対する優良職員表彰林野庁長官賞の伝達式が行われ、局長から広島森林管理署長に表彰状が贈呈されました。



局長から広島森林管理署長に賞状を授与

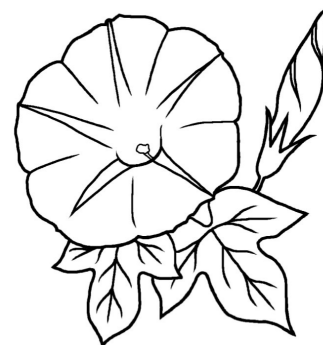
平成30年7月豪雨では、西日本を中心に多くの地域で土砂災害や河川の氾濫に見舞われ、特に広島県では、甚大な被害が発生しました。

広島森林管理署では、被災直後から「広島森林管理署災害対策本部」を設置し、林野庁や全国の森林管理局の応援を得ながら、国有林及び民有林における被害状況調査を行い、応急対策の早期実施に取り組んできました。

この度、同対策本部が行ってきた、関係機関との連絡調整・現地調査・応急対策の早期実施や民有林支援の取組が、地域の皆様の安全・安心の確保に大きく貢献したとして、林野庁長官から表彰されたものです。

なお、広島県から民有林被災地の早期復旧要請を受け、新たに民有林の治山事業を国が直接実施する「民有林直轄治山事業」を開始するとともに、昨年10月には、東広島市に「山地災害復旧対策室」を新設し、災害復旧を進める体制作りにも取り組んでいます。

地域の皆様の生活を守っていくため、引き続き、災害復旧や適切な森林整備の推進に努め、災害に強い森林づくりに努めて参りたいと考えています。



産官共催ワークショップ 「SDGs に貢献する木材産業」 を開催

【技術普及課】

7月19日（金）、木材産業の観点から持続可能な社会を考えるワークショップとして、（公社）日本木材加工技術協会関西支部早生植林材研究会、（一社）平林会及び近畿中国森林管理局の共催で「産官共催ワークショップ～SDGs に貢献する木材産業～」を開催しました。



高野局長による開会挨拶

当日は木材産業界、行政、教育・研究機関などから、定員70名を超える81名に参加いただきました。2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）のサブテーマに「持続可能な社会・経済システム」が挙げられていることもあり、関西圏においてもSDGsに対する関心が高まっていることが窺えます。

開会にあたり、高野局長より、SDGsと森林・林業・木材産業とは多くの面で関連性があること、センダン（早生樹）がSDGsの達成において有効な樹種であることなどについて、政府や自治体での取組を交えて説明し、挨拶しました。



多くの方に参加していただきました

その後、東京大学井上雅文教授からSDGs時代の木材マーケティング戦略について、京都大学村田功二講師からセンダン植林の歴史とこれからの展望について話題提供をいただき、参加者による意見交換を行いました。

参加者からは、森林・林業・木材産業がSDGsをいかにして活用していくのか、早生樹の将来性、森林や山村の現状など、川下から川上までの様々な立場からの提案や質問が出され、活発な討論が繰り広げられました。

お知らせ

『子ども絵画展』の作品を募集

- テーマ 「子供たちから見た森林や木」
- 応募資格 小学生以下の方
- 募集期間 令和元年10月4日（金）まで
- 展示 「水都おおさか森林の市」（10月27日（日））において展示
 - * 詳しくは、近畿中国森林管理局のホームページでご確認ください。
 - (<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/morinoichi/index.html#kodomokaiga>)

森林のギャラリー（局庁舎1階）

- 展示内容・期間
 - ・ 大阪の生物多様性（大阪府） 8月27日（火）～ 9月19日（木）
 - ・ 林業大学校等の取組紹介（各大学校等） 9月17日（火）～10月18日（金）
 - ・ 木工作品の展示（日本日曜大工クラブ） 9月24日（火）～ 9月29日（日）
- 開館時間
 - 月曜から金曜日まで（土日、休日は除く） 9時00分～17時00分

我が署のスタッフ 島根森林管理署 高田隼輔（平成30年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は?】

私は昨年入庁し、今年で二年目になります。「百年後の日本人に、生物の豊かな自然をつなぎたい。」という思いで入庁しました。今の担当は森林経営と森林計画です。森林経営は国有林で管理している立木を調査、販売をする、木材の供給に関わる仕事です。そして、森林計画は、国有林をどのように管理していくかを決める仕事です。図面やデータを見て考えることもありますが、基本は国有林の現場を見ながら考えます。また、林内を歩くと、急傾斜地があったり、マムシがいたりと様々な危険に出会います。ただ、山で食べるお弁当はとてもおいしいです。

【職場の雰囲気は?】

林野庁では様々な研修やプロジェクトが行われています。それらの多くは、年齢や担当に関係なく参加でき、特に若い人は背中を押してもらえる雰囲気があります。私のような新人でも「行ってきていいよ」と言ってもらえることが多いです。そのおかげで、幅広い技術や知識を学び、活用しつつ仕事に取り組んでいます。

【林野庁の魅力とは?】

林野庁の魅力はタイムスケールが壮大であることです。グローバルな取組であるSDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）を踏まえて、今と未来をつなぐ政策を考えることもあれば、百年以上前に先人が残した図面を広げることもあります。



森林調査中の筆者

シリーズ 『国有林 最前線！』

奈良森林管理事務所の取組を紹介します

奈良森林管理事務所

奈良県北部地域の国有林は、奈良盆地周辺の丘陵地帯に小面積で分散し、都市近郊に多く所在しています。また、歴史的にも風致的にも重要な森林が多く、レクリエーションの森の整備や古事の森の設定など、我が国の木の文化を後生に守り伝えていくための様々な取組を行っています。

【レクリエーションの森を活用した地域振興】

林野庁では、全国の「レクリエーションの森」のうち、魅力的な自然景観等を有し、特にみなさまに訪れていただきたい森を「日本美しい森 お薦め国有林」として全国で93箇所を選定し、重点的に環境整備等に取り組むこととしています。

当所では、「高取山風景林（高市郡高取町）」と「大和三山風景林（橿原市）」の2つが選定され、それぞれ協議会を設置し、風景林の整備等を推進するためのサポーターを一般から募集するなど、情報発信や施設整備等に取り組んでいます。

【木の文化継承への貢献】

国宝・重要文化財等に指定されている神社・仏閣等の修復に必要な大径長尺材を確保するため、奈良市内の地獄谷国有林内に「春日奥山古事の森」、斑鳩町内の野山国有林内に「斑鳩の里法隆寺古事の森」を設定しています。

また、森林と木の文化の関わりやその重要性等について、国民の皆さんに広く知っていただくため、古事の森育成協議会と連携し、平成22年度から毎年、普及啓発イベントを実施しており、今年度も10月31日に春日大社感謝・共生の館で実施予定です。皆さんもぜひご参加下さい。



高取山風景林

福井森林管理署 松原森林事務所 森林官 武田尚之

我が松原森林事務所は、福井県敦賀市と美浜町に所在する海拔0m地帯の海岸林から滋賀県との県境にある標高876mまでの11団地、約4,800haの国有林を管理しています。

その中で「特に注目の国有林は？」と問われれば、何と言っても日本三大松原の一つで県内外から年間約20万人の人が訪れている「気（け）比（ひ）の松原」の松原国有林でしょう。気比の松原は、もとは気比神宮（720年造営）の神苑であったものが、室町時代中期に織田信長に没収され、その後、江戸時代に小浜藩有林となり、明治の版籍奉還の際に国有林になったものです。面積は、東西約1km、南北約0.4km、約32haで、保安林、名勝、若狭湾国定公園、都市公園に指定されており、林野庁としてもレクリエーションの森として管理しています。平成24年の現地調査では約16千本の樹木が確認され、うち赤松が約八千本、黒松が約五千本で、海岸林としては珍しく赤松の比率が高いことが特徴です。

しかしながら、この松原国有林、歩道やベンチ等も整備されていますが、林内を歩いている人は、近隣の学生や市民が多く、観光客と思しき人は、浜に隣接する駐車場の車から降りて海を見る人ばかりです。そして砂浜を少し散策し、車に戻ります。気比の松原に来て松林の中を味わわれないのは残念です。松林を散策してから見る海や林内から見る海は、また格別です。「白砂青松」の松原です。一度、お試しあれ。



気比の松原